

## 今月号のお知らせ内容

### ①工事の進捗状況等

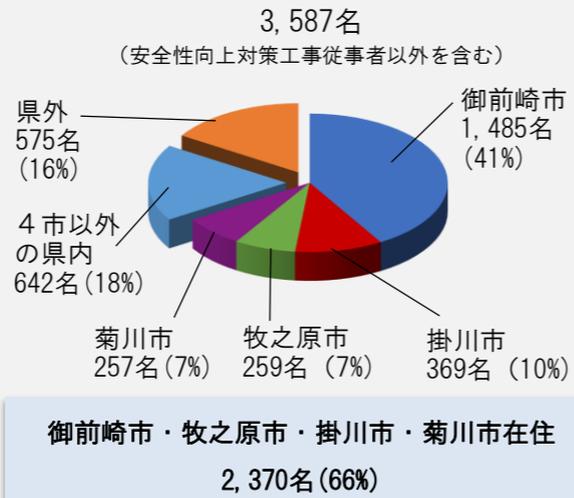
福島第一原子力発電所事故を踏まえた

放射線計測器等

### ②重機訓練用敷地の準備状況

### ③審査会合

## 浜岡原子力発電所従事者数（8月1日現在）



※四捨五入により100%とならない場合があります。

## ①工事の進捗状況等

### 福島第一原子力発電所事故を踏まえた放射線計測器等

発電所において重大事故が発生した場合に備え、発電所周辺の放射線環境測定を行うために福島第一原子力発電所事故以降に配備した計測器等について紹介します。

#### 可搬型モニタリングポスト

モニタリングポスト※1が故障した場合や敷地海側の測定が必要な場合に、環境中の放射線量を測定します。

保有数：12台（うち2台は予備）



※1 発電所の陸側敷地境界に7箇所常設しており、24時間連続で環境中の放射線量を測定する施設です。

#### 可搬型気象観測装置

常設の気象観測設備が故障した場合に、大気中の放射性物質の飛散距離や方向を推定するための気象データを測定します。

保有数：2台（うち1台は予備）

風向・風速計や雨量計などを備えています

風向・風速計



雨量計

#### 海上用放射線計測器（マルチコプター）

周辺海域の放射線モニタリングとして、環境中の放射線量の測定、放射線量の測定のために海水や空気中の粉じんを採取します。



保有数：2台（うち1台は予備）

## ②重機訓練用敷地の準備状況

- 津波浸水が発生した場合、原子炉建屋などにある重要設備へのアクセスルート確保のためにがれき撤去が必要です。がれき撤去に必要な重機の訓練用敷地を発電所内に造っています。従来、重機訓練は外部の専門機関の訓練施設で実施していましたが、完成後は発電所内での訓練が可能となります。
- 造成作業は、がれき撤去に使用する重機を用いて操作能力の向上を目的にERF※2が実施しています。

### <造成工事の実施状況>



伐木作業の様子



土のう作成の様子



土砂運搬作業の様子



重機訓練フィールド造成場所  
(約20m×約60m)

※2 緊急時に特化した幅広い対応力をもつ緊急時即応班詳細については裏面左下をご覧ください。

## ③審査会合

原子力規制委員会による新規制基準適合性確認審査を受けています。8月3日は敷地内の断層（H断層系）についてコメント回答を実施し、引き続き審議することとなりました。

### <敷地内の断層（H断層系）の審査状況>

#### 新規制基準における断層の扱い

将来活動する可能性のある断層等※3が、重要な安全機能を有する施設の真下がないことを確認する。

※3 約12～13万年前以降の活動が否定できないもの

### 当社のこれまでの主張

#### 【評価対象とする断層の代表性】

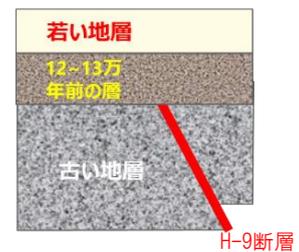
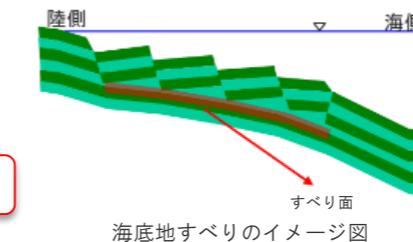
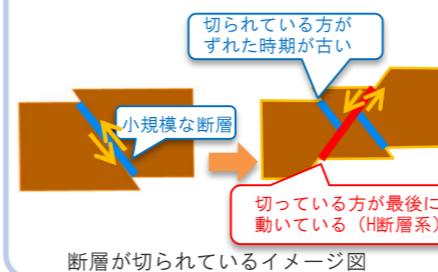
敷地内の断層のうち、H断層系を活動性評価の対象とする。  
・H断層系が最後に動いた断層であるため、活動性評価の対象とする。

#### 【H断層系の分布・同一性】

H断層系は一連のグループであり、同時期に形成されたものである。  
・H-1断層～H-9断層は同時期に海底地すべりにより形成されたと評価している。

#### 【H断層系の活動性】

H断層系は約12～13万年前以降活動していない。  
・約12～13万年前の上載地層が存在するH-9断層は、上載地層に変位・変形を与えていない。



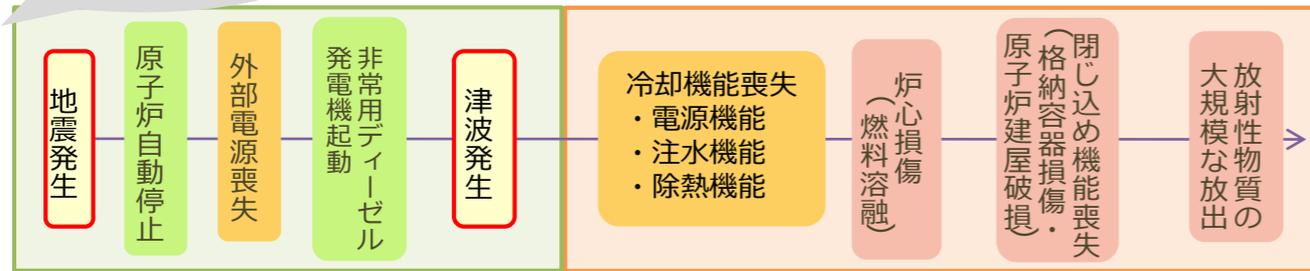
図で示す測定場所はイメージです

# 発電所の安全性を更に高めるための取り組み【概要】

福島第一原子力発電所の事故の教訓から、発電所では地震や津波等の様々な事態に対処するために、設備の追加配備や現場対応力の強化をおこなっています。主な取り組みをみなさまへ紹介いたします。

## ①福島第一の話

福島第一原子力発電所の事故の場合は、以下のように事象が進展しました。



発電所では、福島事故の前から電源や注水、除熱の機能をもつ設備を多重性・多様性をもって配備していますが、事故以降、様々な追加対策を講じ、更に発電所の安全性を向上させています。

## ②設備の話

従来の設計基準の事故に加えてより厳しい想定 of 重大事故に対処するため、様々な事態を想定し、対策を実施しています。また、対策に柔軟性を持たせるために、可搬型の設備も配備しています。

【主な設計基準事故対処設備】原子炉施設の安全を確保するための機器が、一斉に機能喪失しないようにします。

**巨大地震に耐える。**  
原子炉建屋は岩盤に直接設置され、地震に強い構造としています。

また、配管サポートの追加をはじめとした重要な設備の耐震補強を実施しています。

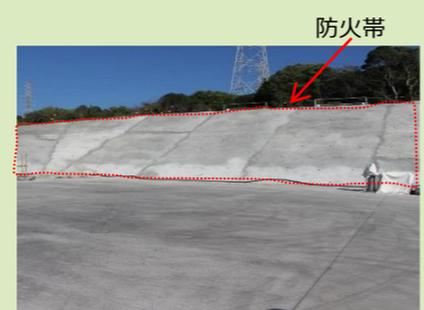


**津波を浸入させない。**  
津波が発電所に来襲した場合、海拔22mの防波壁で敷地内への浸水を防ぎます。

万が一、敷地内に浸水した場合でも強化扉・水密扉により建屋内の浸水を防ぎます。



**自然災害に備える。**  
発電所敷地外で発生した火災が発電所施設に燃え移らないように防火帯を設置します。



【主な重大事故等対処設備】冷やす機能を確保し、重大事故に至らないようにします。また、重大事故等の発生を想定し、事故の進展を防ぐ機能を強化しています。

**重大事故に至らせない**

恒設	可搬
<p><b>電源機能強化</b></p> <p>ガスタービン発電機 高台40m地点から電気を供給</p>	<p><b>交流電源車</b></p> <p>恒設の交流電源設備が故障した場合に備え配備</p>
<p><b>注水機能強化</b></p> <p>緊急時淡水貯槽 高台30m地点から原子炉を冷やす水を供給(7日間分)</p>	<p><b>可搬型注水ポンプ車</b></p>
<p><b>除熱機能強化</b></p> <p>緊急時海水取水設備 既設の海水取水ポンプが故障した場合に備え同様な設備を設置</p>	<p><b>可搬型取水ポンプ車</b></p> <p>恒設の注水設備が故障した場合に備え配備</p>

**重大事故の発生に備える**

**フィルタバント設備**

格納容器の破損を防止するため、気体を外部へ放出する際は、放射性物質を吸着するフィルタを通し、セシウムなどの放出量を1000分の1に抑えることで避難の長期化を防止します。

**放水砲設備**

原子炉建屋の水素爆発を防止するため、建屋から水素を排出した際に放水砲により放射性物質を地上に落とし放射性物質の拡散を抑えます。

重大事故等に柔軟に対応するため、可搬型車両やその保管場所を確保し分散配置します。対応現場へ出動できるよう、複数のアクセスルートの確保に取り組んでいます。

## ③現場対応力の話

配備した設備が期待通りの機能を発揮するためには、扱う「人」の「現場対応力」が必要だと考え、強化しています。

### 【初動対応の強化】

緊急時即応班を設置し、運用開始に向けて増強しています。

**24時間 365日体制** **緊急時に特化した幅広い対応力**



役割 (現在17名)  
・戦略検討  
・アクセスルート確保  
・可搬設備の操作等  
現場対応

### 【手順の整備・資格の取得】

設備導入に伴い、必要な手順の追加や免許等の資格の取得をおこなっています。



<取得免許例>  
・大型自動車免許  
・けん引免許  
・移動式クレーン免許 など

### 【訓練の充実】

目的に応じて様々な事故・事象への対応を網羅的に確認・強化し、緊急時に対応する組織の能力を総合的に向上させます。

#### 総合訓練



主に現場や発電所外との連携、対応手順の確認を目的に実施しています。

#### 図上演習



判断能力の向上を目的とした訓練を2015年度から実施しています。

### 個別訓練

新たに設置した設備の手順を確認するとともに、可搬設備の操作等に必要力量の向上に努めています。(年間約630回：2017年度実績)



シミュレータ訓練

電源車操作訓練

可搬型モニタリングポスト設置訓練

今後も、安全最優先で、浜岡原子力発電所の運営に努めてまいります。また、地域の皆さまからいただいた声に丁寧にお応えし、皆さまに信頼いただける発電所を目指してまいります。